



# Let's TANDQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

教育委員会等との連携における授業研究の様子

- ・北海道教育委員会
- ・大分県教育庁高校教育課
- ・長崎県文理探究科連絡協議会

## 探究的な学びの実現と授業研究コミュニティの拡大へ一両輪で目指す新しい教員研修のカたち

3年目となる北海道教育委員会，昨年度からの大分県教育庁高校教育課，長崎県文理探究科連絡協議会と連携し，「探究的な学び」の実現を目指して，授業研究に取り組みました。



北海道教育委員会との連携は3年目を迎え，昨年度の国語，地歴（歴史），数学，理科（化学），外国語（英語）に，今年度からは地歴（地理）を加え，5教科6科目で「探究的な学び」の実装化に向けた授業研究を実施しました。

新たに連携した地歴（地理）では，地理総合「生活圏の調査と地域の展望」で授業研究を展開しました。生徒が身近な地域の課題を発見し，探究の問いを立てるプロセスを捉えるべく，教材や手立てを練りました。東京学芸大学附属高等学校の栗山絵理先生にも，検討会と当日の研究授業・研究協議に参加いただき，実践的な立場からさまざまなアイデアをいただきました。また，2年目の連携となる外国語科（英語）では，学校教育目標をもとに，「自分の意見や理由を英語で自信をもって話せる力を身に付けさせたい」という授業者の想いのもと，帯活動の充実を意識した単元・授業づくりをしました。

さらに今年度は，一連の授業研究に参画した指導主事や先生方と，教科・科目ごとに振り返りの場を設け，授業研究自体へのフィードバックを共有しています。授業研究コミュニティの拡大には，**授業研究を通じた教員の学びの自覚化**，すなわち，**どのような変容があったかや次に向かうべき方向を自覚することが鍵**となることわかってきたからです。

高校探究プロジェクトでは，引き続き，北海道教育委員会と連携し，**生徒と教員の双方の学びを充実させていくことを目指し，授業研究コミュニティを拡大していきます**。3月2日（土）に開催するオンラインイベント（左参照）で，プロジェクトとの連携担当の方から，今年度の実践をご報告いただきます。

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

キックオフから **2年**  
**瞳輝く学びの実装化** オンラインイベント

参加無料  
3.2(土)  
13:30~16:00

高校文化のアップデート

**3/2(土)13:30~16:00開催**

『瞳輝く学びの実装化～高校文化のアップデート～』では，キックオフイベントからの2年間の活動を振り返り，学校・授業文化のアップデートに向けて，みなさまとともに考える場になりたいと考えています。北海道教育委員会と大分県教育庁高校教育課の方から実践報告していただきます。詳細はWebページから！

## 授業づくりを探究していくことで得られる 教員の学び、そして更なる実践へ

大分県との2年目になる連携では、昨年度に引き続き『指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進事業』と連動させ、国語・地歴・数学・理科・英語に情報、家庭を加えた7教科で授業研究に取り組みました。

6月に実施したチームメンバーの顔合わせでは、昨年度の実践を通して見えた成果と課題の共有や今後の実践に向けた話し合いを行いました。昨年度の授業者とリーダー（指導教諭）が、「**授業を検討していく過程が教員にとっての探究であった**」と振り返られたことが印象的でした。

各教科チームで、研究授業に向けた検討を始めるに先立って、研究授業対象クラスの授業観察や、県外の学校等への視察が実施されました。例えば、理科（化学）では、本学の附属国際中等教育学校で国際バカロレアの理念に基づく授業を観察するとともに、**どのような授業研究にしていきたいか、それぞれの想いを共有し、授業研究の目標やテーマを検討しました。**

9月から始まった指導案の検討では、単元目標を再考するとともに、**生徒の考えの広がりや深まりをどのようにつくり、どのように評価するか**という議論へと深まっていきました。例えば、国語科（古典）では、生徒が当時の時代背景や身分に基づいた価値観を理解しながら、古典を読むことに対して、どのような活動がよいかを検討していきました。

12月には、各教科で授業研究会を実施しました。例えば、情報科では、生徒がWebアプリケーションを活用し、複数のデータから何を読み取ることができるかを考えながら、分析手法と変数を選んで分析を重ね、考察していました。授業者は、チームの先生方と検討を重ねながら実施した研究授業を振り返り、今後の授業づくりにつながる見方や考え方を顕在化していました。

次年度以降も、チームで探究的な学びの授業デザインをするとともに、**探究的な学びのコミュニティをリードする指導教諭、指導主事としてのスキルの習得を目指して、組織的な取り組みを続けていきます。**

昨年度末、北海道・大分県教育委員会の担当指導主事の方には、授業研究のプロセスや学びをもとに、授業研究の実施のための学習材として**ツールキット**も作成していただきました。現在、高校探究プロジェクトの各教科の**ツールキットのページ**にて公開しています。ぜひご活用ください。

## 現場発信で、各教科、新しい授業のカタチにチャレンジ！！

連携2年目となる長崎県文理探究科連絡協議会（文理探究科新設5校で設置）では、実施教科および参加校を増やして、授業研究に取り組みました。

今年度新たに結成した外国語チームでは、夏から、英語の授業における探究的な学びについての意見交換を通して、**文法の授業をいかに探究的に展開するか**というテーマを設定されました。11月の研究授業に向けて、授業者の先生とプロジェクトの小松委員を中心に、日常的に対話の場を設定し、協議を重ね、授業研究会を迎えました。研究授業後の事後協議会では、授業者の自評とともに、授業研究のプロセスを紹介し、参観者がお互いの実践を共有し、文法の授業の探究化について検討しました。最後に、小松委員より、「本プロジェクトの外国語チームでは、楽しい、充実感がある、意味があると感じる時が『幸せ』だという点に注目し『Meaningfulな授業』の実現を目指して取り組んでいます。研究授業に向けた検討会でも、『Meaningfulな授業』として大切な要素となる指導と評価の一体化、日常生活とのつながりをもったオーセンティックな課題、繰り返し、振り返ることについて、授業者と何時間も話し合いました。**日頃の何気ない会話の中にも、たくさんヒントがちりばめられていると感じた貴重な時間**でした。今回、集まっていたいただいた先生方と、今後もゆるやかに繋がっていきたいです。」とお話いただきました。2月中に、振り返りの会を実施し、チームメンバーの先生方の次年度につながる機会にしたいと考えています。



本学にて実施された理科（化学）での協議の様子

教科	チーム構成校	研究授業（科目・単元）	実施日時
国語	猶興館高校 長崎北陽台高校	科目：言語文化 「百人一首を解釈し現代詩にリライトしよう」	12/20 @長崎北陽台
数学	佐世保南高校 島原高校 口加高校	科目：数学B・数列 「自然数の和・2乗和の公式の成り立ち/導き」 科目：数学Ⅱ「式と証明 恒等式」	10/27 @佐世保南 2/9 @島原
地歴	島原高校 猶興館高校 五島高校	科目：歴史総合 「帝国主義の展開とアジア条約改正実現までの過程」 科目：地理総合 「地球的課題と国際協力」※ <b>島原市のゴミ問題</b>	11/1 @猶興館 11/17 @島原
公民	大村高校 佐世保北高校 西彼杵高校	学校設定科目：「OMURA STEAM LABO」 「哲学入門」※「公共」の授業として実践 「自己と他者の生き方～公共の場をどうつくる？」	11/2 @大村
理科	佐世保南高校 長崎北陽台高校 口加高校	科目：生物 「植物の環境応答」※単元融合型授業 科目：理数生物 「生態系と私たち」※ <b>地理との融合授業</b>	11/20 @口加 2/19 @長崎北陽台
外国語	佐世保南高校 大村高校	科目：英語コミュニケーション 「eスポーツの解釈および『問い』・『仮説』の設定」 科目：ディベート・ディスカッションⅠ 「分詞構文とコンテキストの関連性を理解し表現」	10/27 @佐世保南 11/16 @大村

公民チームは、大村高校のSSH事業における学校設定科目「OMURA STEAM LABO」の教科横断プログラムに「公共」の授業を位置づけ、研究授業を実施しました。**他教科とのつながりや教科横断の意義を強く意識された取り組み**となり、他教科の先生方にとって学びの多い実践となりました。

文理探究科連絡協議会5校の枠を越えて、合計10回の研究授業を実施し、数学や生物のように2回行った教科もありました。ボトムアップ型のコミュニティの形成過程の一事例となっています。次年度は、これらのコミュニティをいかに広げていくか、その拡大過程に注目し、そのための手立てを考えています。

